

2020年
上半期

コロナ禍の中で思うこと。

みなさん、こんにちは！日光市小来川地区地域おこし協力隊のまきちゃんです。

今年は新型コロナウイルスという未知の病原体が世界中を震撼させ、当たり前の日常が送れなくなってしまった年となりました。世間では『コロナ禍』という言葉が使われオリンピックをはじめ沢山のイベントが延期や中止となり、大変な事態となっています。

4月の緊急事態宣言後には、外出自粛や帰省自粛などで家族に会うのを我慢したり行きたい場所にも行けずやりたいこともできずに、悶々とした日々を送ることも多かったのではないかと思います。

小来川でも獅子舞やお祭り、盆踊りや運動会など地域の行事がすべて中止になってしまい、非常に悲しい気持ちでいっぱいです。もちろん私も同じように外出や帰省を自粛したり、ふれあいの郷での活動も自粛せざるを得なかったりと、コロナウィルスのせいで我慢したり憤りを感じたりすることが多かったように思います。

しかしながら「コロナのせいで」と思う傍らで、逆にほんの少しですが「コロナのおかげ」かもしれないと思うこともありました。外出自粛のため家族と過ごす時間が増えたり、なかなか時間が取れず見られなかった映画を自宅でイッキ見できたり、3年ぶりに自宅を大掃除したり、テイクアウト可の飲食店が大幅に増えたことで自宅でお食事を楽しむことができました。

もちろん、コロナウィルスに対して擁護したり肯定する気持ちは一切ありません。コロナウィルスのせいで事業が立ち行かなくなり、観光業が深刻なダメージを受け、飲食店が閉店に追い込まれたり、イベントや舞台関係の方の生活が苦しくなったり、コロナウィルスがすべての元凶であるのは間違いなく、一刻も早く元の日常に戻ってほしいと願っています。

しかしながら、そんな中でも全てを「コロナ禍」と悲しむのではなく小さな幸せに目を向け、ほんの少しだけでも心のどこかでプラスに感じたり思えたりしたら、とがってボロボロになっていた心が、少しだけ和らぐのではないかと思います。

皆さんも、思い返してみるとコロナ禍だからこそチャレンジできたり得たり、何かほんの少しでもプラスになったことに心当たりはありませんか？

どこまで続くかわからないこのコロナ禍で、心身ともに疲弊しているとは思いますが、身の回りの小さな幸せを見つけながら、みんなで乗り越えていきましょう！

日光市小来川地区地域おこし協力隊
上吉原 麻紀

疫病退散の願いを込めて、アマビエバージョンで作成しました。



活動報告

私が出席している公民館事業の調理教室（右上）、ヨガ教室（右下）ピアノ教室（左下）の様子です。

今年度は新型コロナウイルス感染への懸念もあり、参加者が少ない中での開催となっていますが、小来川公民館では感染症対策をしっかりと行いながら実施しています！



公民館事業



地域おこし協力隊の研修会が7月・9月にそれぞれ開催されました。

7月の研修では現在の状況確認と情報交換、9月の研修では日光市の創業支援サロンの島田先生に協力隊卒業後の起業・創業について講義を受けました。

1年半後に控える卒業に向け、しっかりとした準備と計画が必要だと感じました！

地域おこし・地域づくり連絡会

編集後記

今年の夏はとても暑かったですね…！暑すぎて毎日アイスや氷ばかり食べてました。

今年は長梅雨で作物があまり実らなかったと色々な方から聞きましたが、皆さんのご家庭では大丈夫でしたか？？私は今年、二十日大根の種をもらってプランターに植えてみましたがやっと芽が出た～！と喜んでたのもつかの間、数日もしないうちに虫に全て葉を食べられ見るも無残な姿になってしまいました…。作物を育てるのは本当に難しいと感じました…。

さて、話は変わりますが、外出自粛期間に自宅を大掃除しました。着なくなった服や不必要な家具などは断捨離し、処分したり家族や友人に譲ったりしました！本当にスッキリしました！（^▽^）

そして大掃除中に10センチ以上あるムカデを5匹も発見しました…！

小来川に住んでもう3年半が経ちますが、やっぱりムカデには全然慣れません…（ToT）